

子育てしやすさNO.1プロジェクトを バージョンアップします！！

- ◆ こども政策のさらなる充実・強化
- ◆ 5年間で約100億円規模の集中投資をさらに拡大
- ◆ 「子育てするなら豊中」に向けバージョンアップ

子育てしやすさNO.1プロジェクトのバージョンアップに向けて

令和5年度から子育てしやすさNO.1プロジェクトとして、
こども政策に重点的に投資を実施

ライフステージに応じた幅広い支援と子育ての社会化の推進を軸に
若者から子育て世代までが将来にわたり住み続けたいまちを実現

「子育てするなら豊中」をめざす

- ◆ 基本理念は「**子育ての社会化の推進**」
- ◆ 若者から子育て世代が将来にわたり住み続けたいまちを実現
- ◆ 子どもが自ら体験し、学び成長できる“こどもまんなか”の推進
- ◆ 必要となる財源は「創る改革」により創出

これまでの子育てしやすさNO.1プロジェクトの実績

本プロジェクト開始以降、子育て世代を中心に転入者が転出者を上回る社会増が続き、転入者アンケートにおいて「子育て・教育環境が良い」の回答が上位にランクイン

【※次ページ以降「各調査結果」参照】

本プロジェクトは、当初「5年で100億円規模の投資」を掲げ、令和6～8年度の3年間で下記の取組みを実施

実施項目	主な取組み	投資金額
「小1の壁」を解消	・小学校における朝7時校門開放の実施 ・放課後こどもクラブの拡充	約20億円
教育の質・機会をハイレベルに	・小学校の放課後学習支援の実施 ・AI型学習ドリル導入	約36億円
子ども・子育てをまるごと支援	・府内中核市初の児童相談所の開設 ・マイ子育てひろば等の拡充	約30億円



当初に掲げた取組みについては、実施済または実施予定となったことから
今後はより多くの方が「子育てしやすさNO.1」の実感を得られるよう
未来への投資を継続、加速させ、プロジェクトをさらにバージョンアップします。

これまでの子育てしやすさNO.1プロジェクトの実績

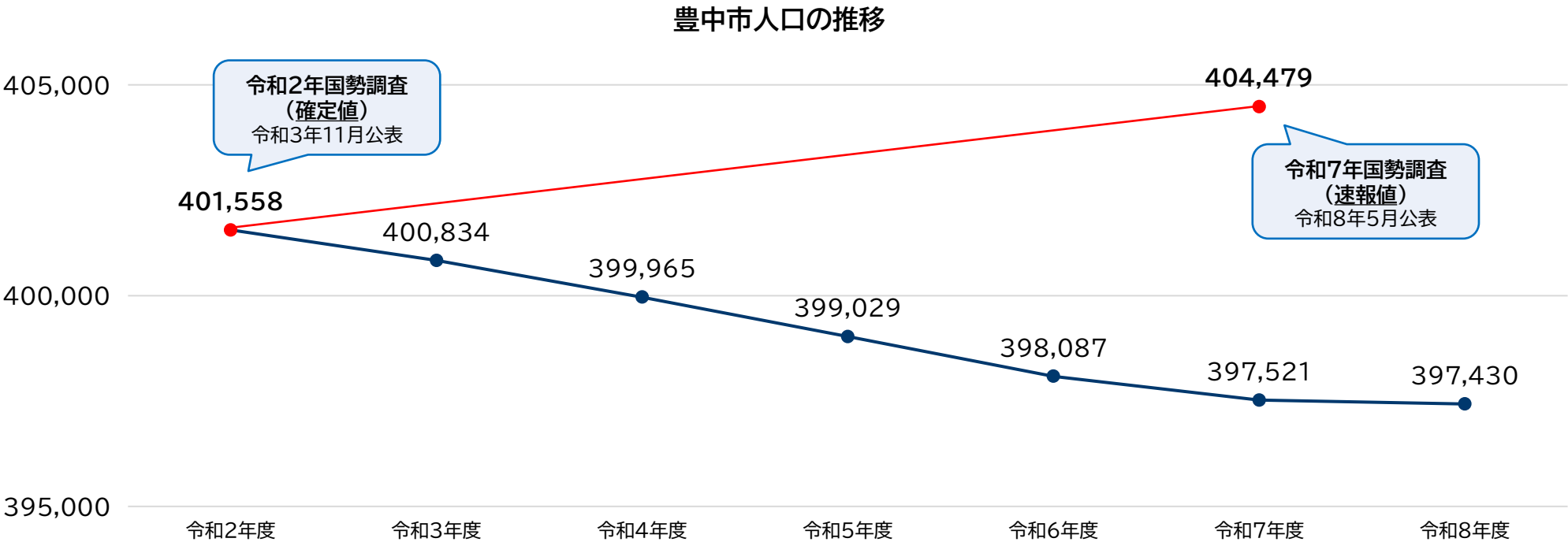
各調査結果

豊中市推計人口

※推計人口とは、直近の国勢調査確定人口を基に、住民基本台帳の異動(出生、死亡、転入、転出)による人口の増減を用いて、豊中市の毎月1日現在の人口として算出したものです。

	令和2年10月1日 (2020年)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)
推計人口	-	400,834	399,965	399,029	398,087	397,521	397,430
増減数(対前年度)	-	-724	-869	-936	-942	-566	-91
国勢調査結果	401,558	-	-	-	-	404,479(速報値)	-

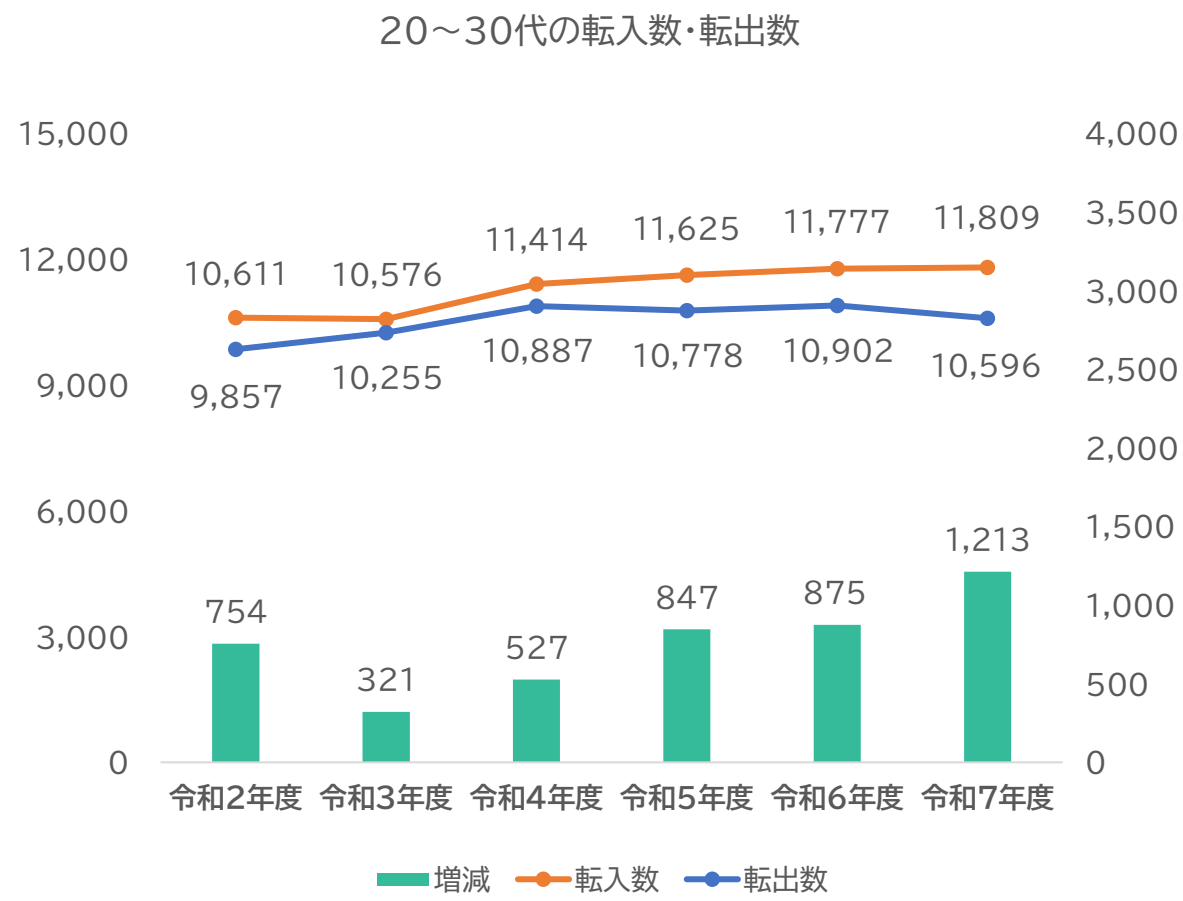
※推計人口は、各年度4月1日時点の人口を表示しています。



これまでの子育てしやすさNO.1プロジェクトの実績

各調査結果

社会増減(転入数>転出数)

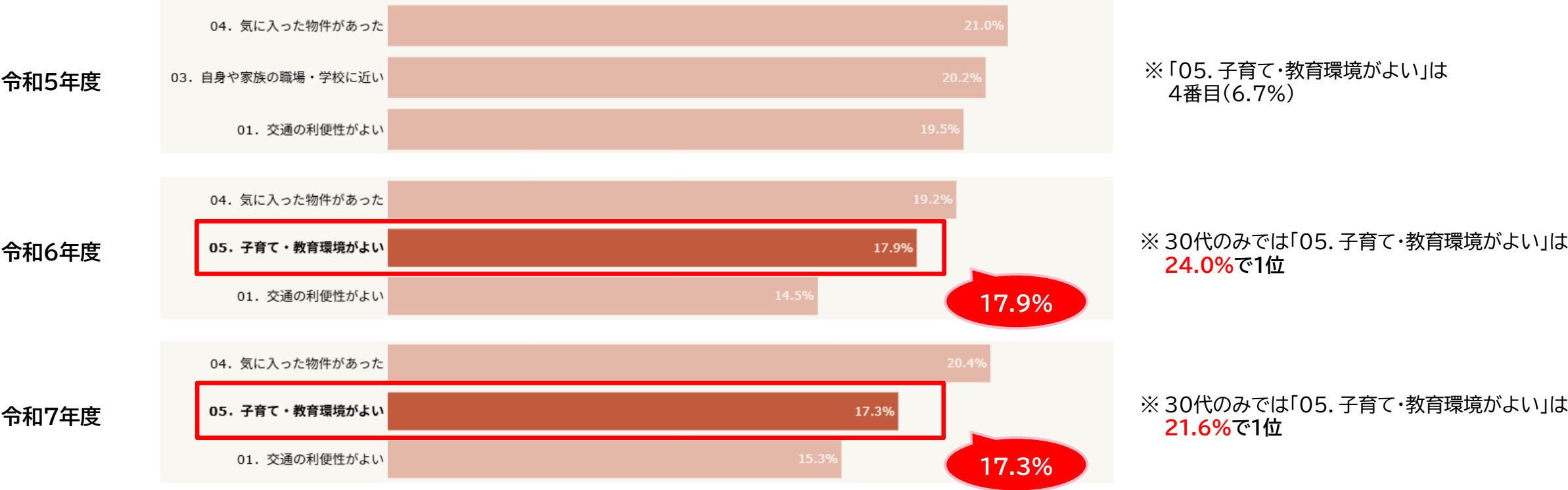


これまでの子育てしやすさNO.1プロジェクトの実績

各調査結果

転出入アンケート 調査期間: 令和3年(2021年)9月～令和8年(2026年)6月

【20～30代】豊中市を選んだ理由(上位3つ)



20～30代でみると、令和5年度までは、物件の条件や交通利便性が上位にあったが、本プロジェクト実施後の令和6年度以降、子育てや教育環境が選ばれる理由の上位にランクインしている。

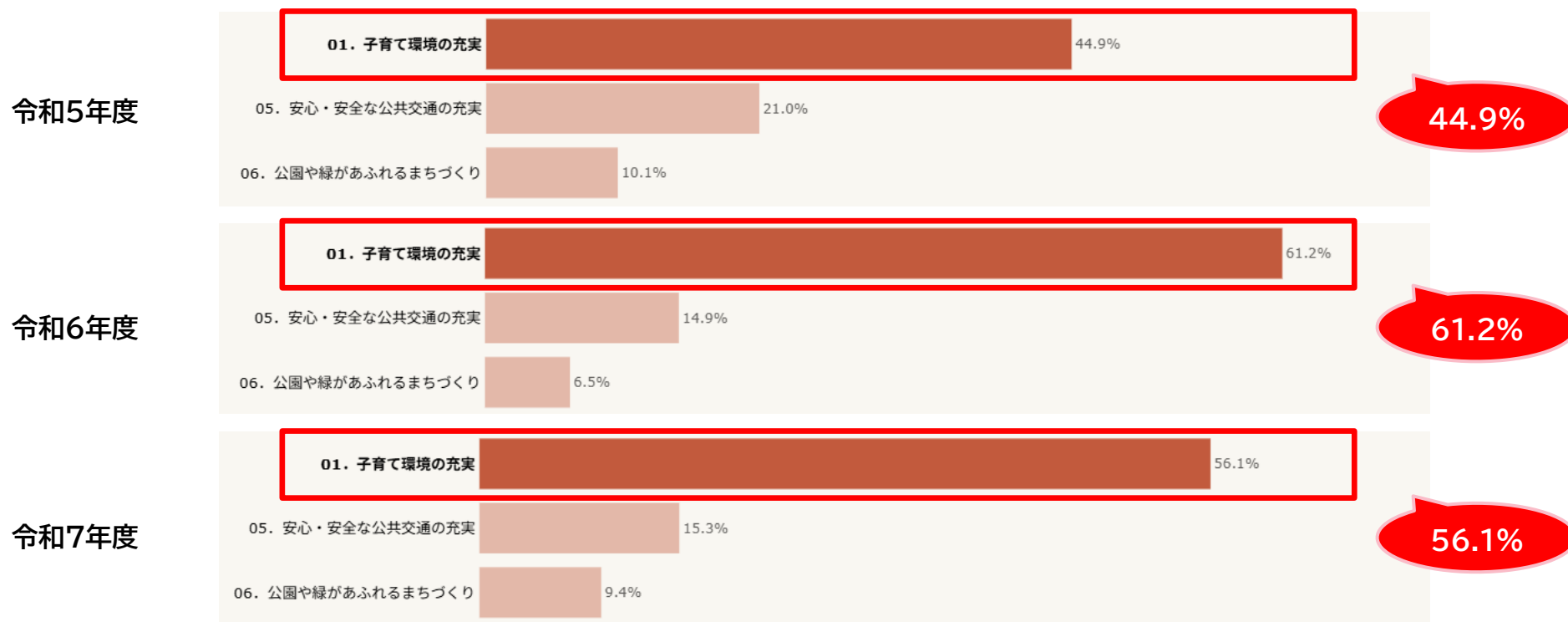
これまでの子育てしやすさNO.1プロジェクトの実績

各調査結果

転出入アンケート

調査期間: 令和3年(2021年)9月～令和8年(2026年)6月

【20～30代】豊中市のまちづくりに期待すること(上位3つ)



20～30代の転入者が豊中市に期待することとして「子育て環境の充実」が最上位であり、本プロジェクトが転入者に向けた訴求として効果的であったことが分かるとともに、さらなる取組みの拡充ニーズが伺える。

これまでの子育てしやすさNO.1プロジェクトの実績

各調査結果

令和7年度市民意識調査 調査期間: 令和7年(2025年)8月

【市内在住18歳以上】

	H29年	R1	R3	R5	R7	傾向
1. 豊中市に住み続けたい	85.5	85.0	86.5	86.6	87.1	↑
2. 子育てがしやすい	43.7	43.1	48.6	46.7	48.9	↑
3. 教育・保育環境が充実している	40.5	40.7	46.5	45.2	48.1	↑
4. 子どもや若者が地域の中で、いきいきと活動できている	36.8	37.3	46.0	44.2	45.9	↑
5. 誰もが安全に安心して暮らせる環境が整っている	55.3	57.1	65.3	67.2	67.5	↑
6. 保健・医療体制が充実している	57.4	58.8	67.6	70.4	69.6	↓
7. 消防・救急救命体制が充実している	55.1	57.3	63.2	65.0	66.5	↑
8. 防犯や防災、交通安全への対策が充実している	49.9	49.8	60.5	61.0	59.9	↓
9. 良好な環境が保全され、快適な都市環境づくりが進んでいる	65.7	65.9	70.6	71.6	71.8	↑
10. 環境にやさしいまち	52.9	54.4	62.5	63.3	64.2	↑
11. 道路・上下水道などが充実している	65.3	65.4	71.2	73.0	70.3	↓
12. 住環境が魅力的なまち	69.4	69.2	73.3	74.7	74.0	↓
13. 地域産業が活性化しているまち	16.5	18.2	27.9	28.0	28.8	↑
14. 人権が尊重されている	38.0	40.0	52.3	54.2	53.1	↓
15. 文化的なまち	57.0	58.6	64.2	67.6	68.4	↑
16. 生きがいをもって心豊かに暮らせる	46.9	49.6	59.3	59.3	59.4	↑
17. 景観や風景・まちなみなどに愛着や誇りを感じる	72.7	74.5	74.5	75.5	75.5	→
18. ボランティア活動や市民活動、地域の活動に取り組んだ	17.6	15.6	12.3	13.2	13.6	↑
19. SDGs 認知度	—	—	65.0	81.5	81.4	↓

上昇傾向

子育てや教育に関する設問の肯定的な回答割合が増加しており、実際に住んでいる方からも評価を得ていることが分かる。

バージョンアップの背景

- 若者の結婚や子育てへの希望は依然として高い一方で、経済面をはじめとする様々な要因により、その希望が必ずしも実現していない状況が指摘されている。 こども家庭庁「若い世代の描くライフデザインや出会いを考えるワーキンググループ 議論のまとめ(最終報告)」(令和7年5月)
- 子育て世帯においても、仕事と家庭の両立や経済的負担などを背景に、理想の数の子どもを持てない状況がみられるなど、子育てを取り巻く環境はいまだ厳しい。 国立社会保障・人口問題研究所「第16回出生動向基本調査報告書」(令和5年8月)

プロジェクトの対象範囲も厚みも拡大

子育て世帯の困りごとから抽出した課題対応に加え、ライフステージに応じた幅広い世代への支援を通じ、結婚や子育てに関する希望の実現につなげる。

若者が将来に夢や希望を持ち安心して結婚・出産・子育てのライフデザインを描くことができる「若者・将来期」に加え、各ライフステージごとの施策を充実することで、プロジェクト全体として「子育てするなら豊中」の好循環構造を形成する。

これまでは…

特定課題に重点投資

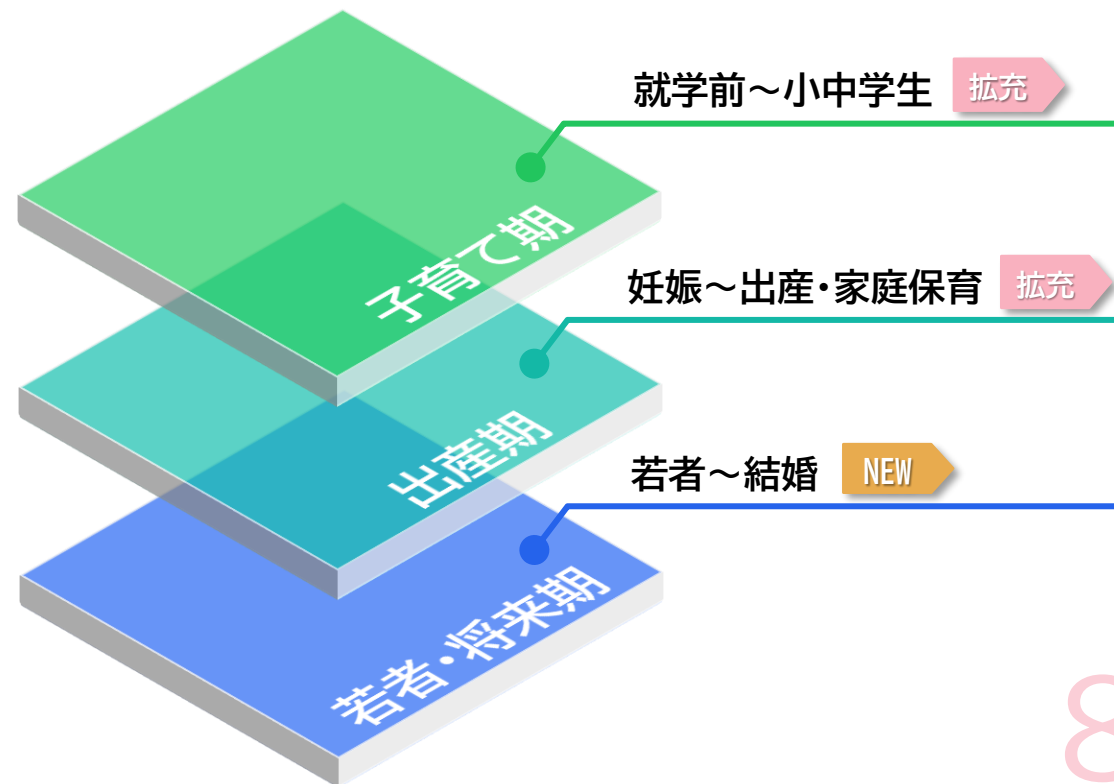
「小1の壁」を解消
教育の質・機会をハイレベルに
子ども・子育てをまるごと支援

子育て環境

シンカ

子育て世帯の困りごとから抽出した課題への対応施策として、課題ごとに取組みを設定し、「子育ての社会化」を基本理念にプロジェクトを推進

「子育てするなら豊中」を推進



プロジェクトの全体像について

ライフステージに応じた幅広い支援と子育ての社会化の推進を軸に
若者から子育て世代までが将来にわたり住み続けたいまちを実現

若者・将来期



若者の学びと挑戦を応援し、
将来に希望を抱ける環境をつくれます

実施項目例

- ・豊中みらい共創チームの創設
- ・大学等の奨学金返還支援

共通実施項目例

出産期



精神面に加え経済面でも
安心して子どもを出産できる
環境をつくれます

実施項目例

- ・妊産婦のタクシー利用を助成
- ・無痛分娩費用助成

子育て期



子育て環境の充実に加え
子どもが自ら体験し、学び成長できる
環境をつくれます

実施項目例

- ・てぶら登園を推進
- ・放課後の学校を新しい居場所に

ライフステージをつなぐ支援・サービスの充実

共育て・共働き応援、家事・育児支援サービス

若者の学びと挑戦を応援

◆ 豊中みらい共創チームの創設 NEW

若者が市政に関するテーマについて議論し、市職員と共創による施策づくりの場を創設

◆ 市民公益活動推進助成金制度の若者コース新設 NEW

若者による公益活動の応援として、活動経費等を支援するコースを新設

◆ 若者による企画立案・実践事業(ユースモ！ #若者チャレンジラボ) 継続

若者によるとよなかの未来に向けたアイディア出しと実践を市が伴走し、応援する事業

若者世代の意見参画の機会を増やし、実践につなげることで、市政への主体的な参画とより良い市民サービスの実現

サポートが必要な若者を支援

◆ 高校生世代のひきこもりの未然防止 継続

ひきこもりの前段階の高校生世代の対象者が自ら進路を考え、社会的自立ができるよう、安心して過ごすことができる場の提供、就学や就労等自立に向けたプログラムを実施

◆ 大学等の奨学金返還支援 NEW

若い世代の経済的負担を軽減し、豊中市への定住を促進するとともに、若者のチャレンジを後押し！

若者の学びと挑戦を応援し、将来に希望を抱ける環境づくりを推進

出産期 ～安心して産み育てられる環境を～

妊娠・出産の安心サポート

◆ 妊婦支援給付金

継続

妊婦支援給付金を市独自にバージョンアップ！
「はぐくみポイント」選択でマチカネポイントを上乘せ給付

◆ 不妊治療助成の拡大

NEW

不妊治療支援を助成額を拡充
保険適用に加え先進医療も助成対象に

◆ 無痛分娩費用助成

NEW

無痛分娩にかかる費用の一部を助成
出産方法の選択肢を増やし安心できる出産をサポート

◆ 妊産婦のタクシー利用を助成

NEW

妊産婦へタクシー乗車券を交付し、移動負担を軽減

豊中ならでは施策の充実強化で、
安心して子ども産み育てるまちの発展へ！

産後も安心して育児を

◆ 産後ケア事業の充実

継続

(宿泊型・デイサービス型・アウトリーチ型)

産後1年以内の母子を対象とした宿泊型・デイサービス型の利用料の減額、受入れ枠数の拡充、利用要件の緩和
新たに助産師等が自宅を訪問するアウトリーチ型の産後ケアを開始し、産後支援を強化

◆ 千里コラボにほっぺ北部分室を設置

NEW

千里コラボセンター内に「ほっぺ北部分室」を新設
中部・南部地域に加え、北部でも子育て交流拠点を拡充！

◆ マイ子育てひろばを全小学校区へ

継続

【場所】公立こども園および民間保育施設
【内容】育児相談や園庭開放、講座等を実施

◆ 24時間対応のAI相談アプリの導入

NEW

24時間対応のAI子育て相談アプリを導入し、もっと安心・便利に子育てできる環境を整備

子育て期 ～多様なニーズにこたえる保育サービス～

健やかな成長をサポート

- ◆ **一時保育を使いやすく** 継続
予約システムの導入による利用者の手続き（電話予約、面談）の簡略化
- ◆ **病児保育の拡充（4ヵ所）** 継続
中北部に加え、南部でも実施
- ◆ **保育ニーズの増加への対応** 継続
民間園の新規整備や定員増加を進めることで誰もが安心して子どもを預けられる環境を整備
- ◆ **きょうだい同園入所の推進** 継続
入所選考指数の見直し
- ◆ **乳児等通園支援事業の実施** 継続
就労の有無にかかわらず、未就園児が保育施設を利用できる「こども誰でも通園制度」を実施
- ◆ **延長保育の拡充** 継続
20時迄開園（2施設→6施設）

通所・通園にかかる負担をトータルサポート

- ◆ **てぶら登園の推進** NEW
公立こども園へのコット導入や私立認定こども園等への導入補助制度を通じて、「てぶら登園」を実現
- ◆ **0～2歳保育料の無償化** NEW
認可保育施設等を利用するすべての0～2歳児の保育料を無償化

保育サービスと子育て支援の充実で、
共働き世帯の仕事と子育ての両立を支援！

学びの環境を充実

◆ AIドリルによるパーソナライズ教育 継続

児童生徒に一人1台配備のタブレットにAIドリルを搭載
【対象】市立小・中学校、義務教育学校の児童生徒

◆ 教育データサイエンス機能を強化 継続

教育ダッシュボード構築と、その活用による一人ひとりの学習状況に応じた具体的な支援・指導

◆ トップレベルの英語教育でグローバル人材を育成 NEW

全校にAET(外国語英語指導助手)を配置し、小学1年生から生きた英語に親しみ、楽しみながら英語力を伸ばせる環境を整備

◆ 外部人材による最先端のAI・デジタル教育 NEW

民間企業の先端技術を持つ人材を講師に招き、児童生徒向けのAI・デジタル教育を実施

◆ 豊中ふるさと教育の実施 NEW

豊中ならではの自然・歴史・文化を学ぶ「ふるさと教育」を全校で実施し、地域への愛着と地域課題対応力を育成

◆ 小学校での教科担任制を拡大 NEW

専門性を活かした質の高い授業を通じて学力向上とグローバル人材の育成を推進

◆ 学校の水泳授業を民間プールで実施 NEW

民間プール施設の専門インストラクターと教員が連携し、一人ひとりに合った安全できめ細かな指導を実施

子育て期 ～確かな学びを育む～

誰も取り残さない学びへのアクセス

- ◆ **修学旅行費、行事費、ドリル・テスト等の副教材費等の無償化** 継続

公教育のさらなる充実とともに、保護者の費用負担を軽減
【対象】市立小学校・中学校・義務教育学校の児童生徒

- ◆ **中学校給食費の無償化** NEW

市立中学校・義務教育学校後期課程の全生徒を対象とした
中学校給食費の無償化を実施

- ◆ **学びの多様化学校の開校** 継続

市立彩葉中学校を令和9年4月に開校
不登校の生徒に配慮した特別な教育課程を実施
【対象】市立の中学生、義務教育学校7～9年生

- ◆ **不登校相談支援センターの設置** NEW

不登校に関する相談、居場所、学び、関係機関との連携を
総合的に整理・調整する中核拠点を設置

- ◆ **フリースクール利用料の助成** NEW

不登校によりフリースクールに通う児童生徒の保護者に、
利用料の一部を助成

一人ひとりに合った学びへのアクセスを充実・強化

放課後も安心、こどもが主役の居場所づくり

- ◆ **中学生の習い事などを助成** NEW

中学生の習い事や学校外活動にかかる費用などを助成

- ◆ **放課後の学校を新しい居場所に** NEW

体育館や学校図書館などを活用して多様な体験・活動を

- ◆ **学校で習い事「放課後select」** 継続

民間資源を活用し、英語、プログラミング、サイエンス、音楽、
ダンスなどの選べる習い事機能を提供

子どもが自ら学び成長できる“こどもまんなか”の視点を

学校以外の時間帯も充実

- ◆ **放課後こどもクラブ(一部)での預かり**

時間延長・休日開設の実施 継続

- ◆ **放課後こどもクラブでの夕食の提供** 継続

預かり時間延長時に、夕食提供を選択可能に

- ◆ **放課後・土日の学習支援を推進** 継続

公民館、学校施設で放課後・土日に学習支援を実施

- ◆ **クラブ1室あたりの児童数の見直し** 継続

おおむね40人で、一人ひとりに目が行き届く環境を

子育て期 ～子ども・子育てまると支援～

子ども・子育て支援のきめこまやかなネットワーク

◆「中核市とよなか」ならではの支援体制で子ども・子育てを確実に支援 継続

産まれる前から就学期まで幅広くサポートする「はぐくみセンター」
特に支援を必要とする子ども・家庭を重点的に支援する「児童相談所」
さまざまな背景をもつ子どもに家庭的で個別的な援助ができる少人数単位の「一時保護施設」

◆ 子ども・家庭をサポートする社会資源を充実 継続

小学校区に1つの家庭養護(里親家庭等)
児童福祉の担い手となる社会資源(里親支援センター・児童家庭支援センターなど)を充実

支援を要する家庭を徹底サポート

◆ 家事・育児支援の実施 継続

多胎児やヤングケアラー、支援を要する家庭などへの訪問・支援

◆ 短期支援の拡充 継続

保護者の育児疲れや疾病などによる一時的な養育困難時に、
0～18歳を対象に里親・里親支援機関等による短期間預かり

◆ ひとり親家庭支援の拡充 継続

相談体制の充実および養育費確保のための親子交流支援を実施

◆ シングルマザー・ファザーのサポート充実 NEW

既存の育児、家事支援の充実に加え、ニーズに合った施策を実施

子育てにやさしい市役所・社会づくり

◆ 引越し等に伴う手続きのワンストップ化 継続

引越し、児童手当、子ども医療等の手続きを一括で可能に

◆ 公共施設にこどもスペースを設置 継続

「こども・子育てスペース」を市内60か所以上に設置
自習、室内遊び、休憩、交流、相談など7種の機能を提供

◆ 子育て世帯への住まいの拡充 継続

市営住宅に優先的に入居できる住戸を拡大

あらゆる場面での
子ども・子育てを市全体でサポート

子育て期 ～子ども・子育てまると支援～

子どもの居場所をより身近なところに

- ◆ **だれでも参加可能な子どもの居場所を全小学校区へ** 継続
食事の提供、学習支援、体験活動等を実施
- ◆ **支援が必要な子どもの居場所を全中学校区へ** 継続
【場所】児童育成支援拠点・豊中型認定居場所 【内容】居場所・食事の提供・学習支援、生活習慣の形成支援等を実施
- ◆ **子どもから高齢者までみんなが集える地域交流の場を創設** NEW
既存の公共施設をリニューアルし、子どもから高齢者まで集える多世代交流拠点の整備

子どもたちの遊び場の充実

- ◆ **子どもが天候にかかわらず思いっきり遊べる公園・施設づくり** NEW
雨の日も暑い日も思いっきり遊べる機能強化や、魅力的な遊具・インクルーシブ遊具の導入、ボールパークの設置などを推進
曽根駅周辺エリアにおけるまちづくりとして、豊島公園内に子どもたちも集える複合施設を整備

子育ても仕事も応援

- ◆ **こども園と放課後こどもクラブの入会要件の統一・運用** 継続
- ◆ **子育てポータルサイト、公民連携プラットフォームの運用** 継続
- ◆ **小学校入学前の家計サポート** 継続
小学校1年生のタイミングでマチカネポイントを支給
- ◆ **朝7時からの小学校の校門開放** 継続

共働き世帯や保護者の多様な働き方を応援

各ライフステージにおける取組みの方向性・施策一覧

若者・将来期

若者の活躍を応援

若者の学びと挑戦を応援	豊中みらい共創チームの創設
	市民公益活動推進助成金制度への学生・若者特化コース新設
サポートが必要な若者を支援	若者による企画立案・実践事業(ユースモ！#若者チャレンジラボ)
	高校生世代のひきこもりの未然防止
	大学等の奨学金返還支援

出産期

安心して産み育てられる環境を

妊娠・出産の安心サポート	妊婦支援給付金
	不妊治療助成の拡大
	無痛分娩費用助成
	妊産婦のタクシー利用を助成
産後も安心して育児を	産後ケア事業の充実
	千里コラボにほっぺ北部分室を設置
	マイ子育てひろばを全小学校区へ
	24時間対応のAI相談アプリの導入

子育て期 ～未就学期～

多様なニーズにこたえる保育サービス

健やかな成長をサポート	一時保育を使いやすく
	病児保育の拡充(4ヵ所)
	保育ニーズの増加への対応
	きょうだい同園入所の推進
	乳児等通園支援事業の実施
通所・通園にかかる負担をトータルサポート	延長保育の拡充
	てぶら登園の推進
	0～2歳保育料の無償化

子育て期 ～就学期～

確かな学びを育む

学びの環境を充実	AIドリルによるパーソナライズ教育
	教育データサイエンス機能を強化
	トップレベルの英語教育でグローバル人材を育成
	外部人材による最先端のAI・デジタル教育
	豊中ふるさと教育の実施
	小学校での教科担任制を拡大
	学校の水泳授業を民間プールで実施

子育て期 ～就学期～

確かな学びを育む

誰も取り残さない学びへのアクセス	修学旅行費、行事費、ドリル・テスト等の副教材費等の無償化
	中学校給食費の無償化
	学びの多様化学校の開校
放課後も安心、こどもが主役の居場所づくり	不登校相談支援センターの設置
	フリースクール利用料の助成
	中学生の習い事などを助成
学校以外の時間帯も充実	放課後の学校を新しい居場所に
	学校で習い事「放課後select」
	放課後こどもクラブ(一部)での預かり時間延長・休日開設の実施
	放課後こどもクラブでの夕食の提供
	放課後・土日の学習支援を推進
	クラブ1室あたりの児童数の見直し

子育て期 ～共通～

子ども・子育てまると支援

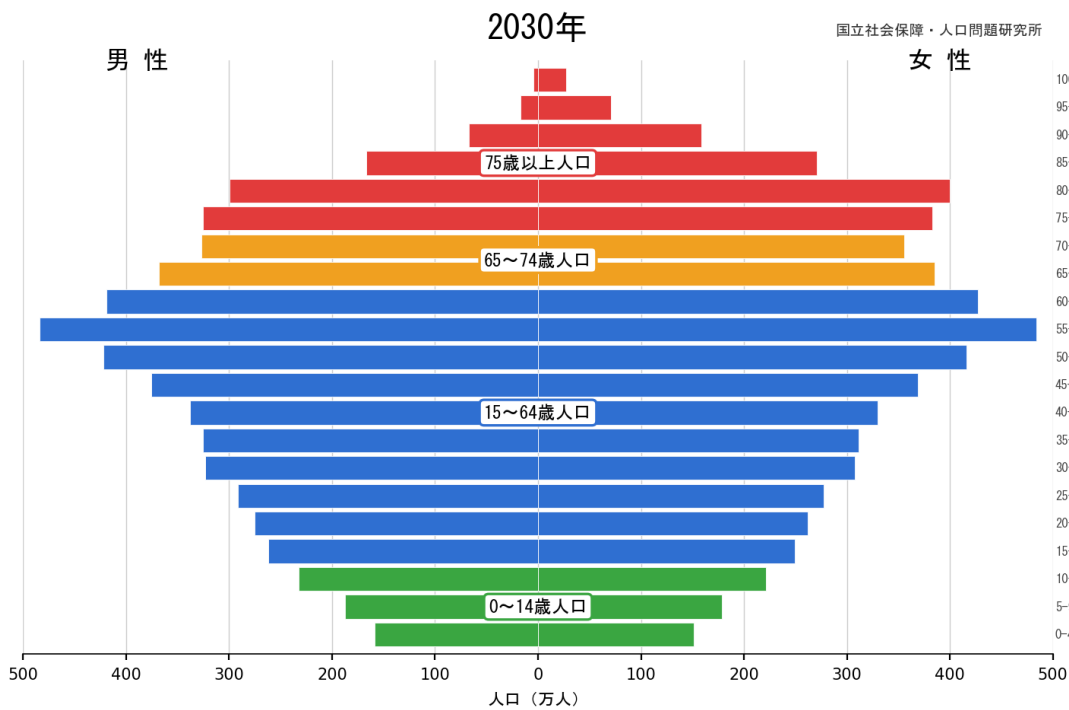
子ども・子育て支援のきめこまやかなネットワーク	「中核市とよなか」ならではの支援体制で子ども・子育てを確実に支援
	子ども・家庭をサポートする社会資源を充実
支援を要する家庭を徹底サポート	家事・育児支援の実施
	短期支援の拡充
	ひとり親家庭支援の拡充
子育てにやさしい市役所・社会づくり	シングルマザー・ファザーのサポート充実
	引越し等に伴う手続きのワンストップ化
	公共施設にこどもスペースを設置
子どもの居場所をより身近なところに	子育て世帯への住まいの拡充
	だれでも参加可能な子どもの居場所を全小学校区へ
	支援が必要な子どもの居場所を全中学校区へ
子どもたちの遊び場の充実	子どもから高齢者までみんなが集える地域交流の場を創設
	子どもが天候にかかわらず思いっきり遊べる公園・施設づくり
子育ても仕事も応援	こども園と放課後こどもクラブの入会要件を統一・運用
	子育てポータルサイト、公民連携プラットフォームの運用
	小学校入学前の家計サポート
	朝7時から小学校の校門開放

参考資料

人口ピラミッド・出生数の推移

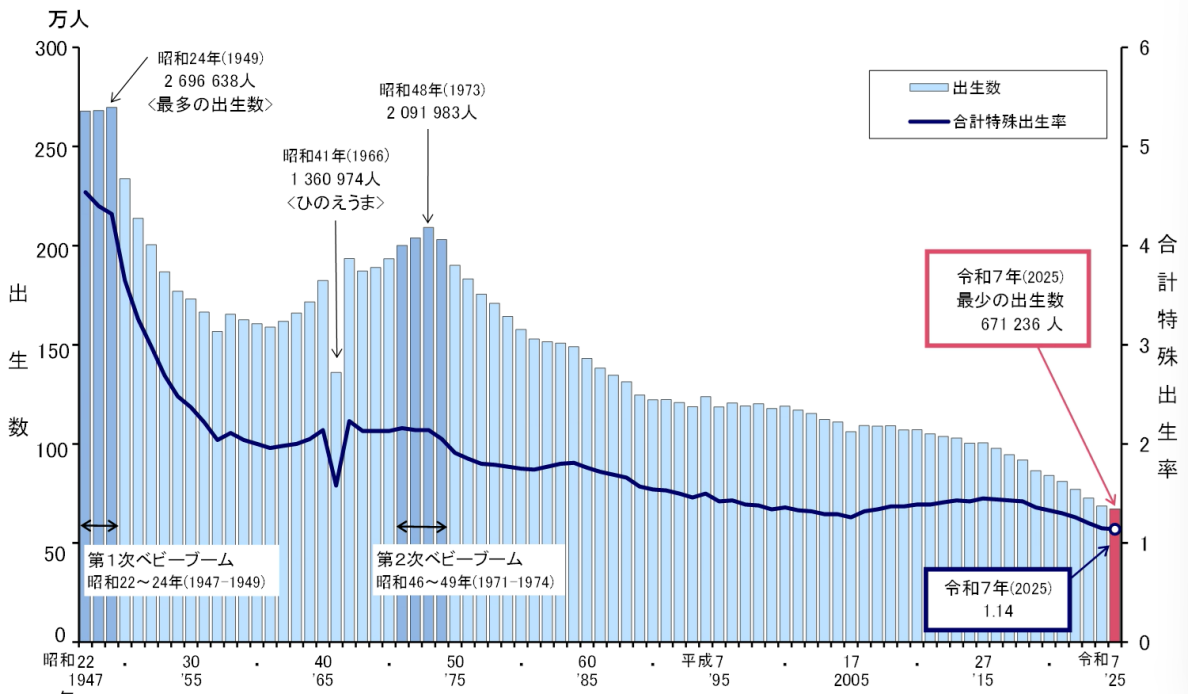
- 令和7年(2025年)の人口動態統計で、合計特殊出生率は過去最低を更新する1.14
- 出生数は統計開始以来、令和6年(2024年)に初めて70万人を割り込んで以降、過去最低を更新し続けている

<2030年 人口ピラミッド>



出展: 国立社会保障・人口問題研究所「人口ピラミッド2030年」

<出生数及び合計特殊出生率の年次推移>

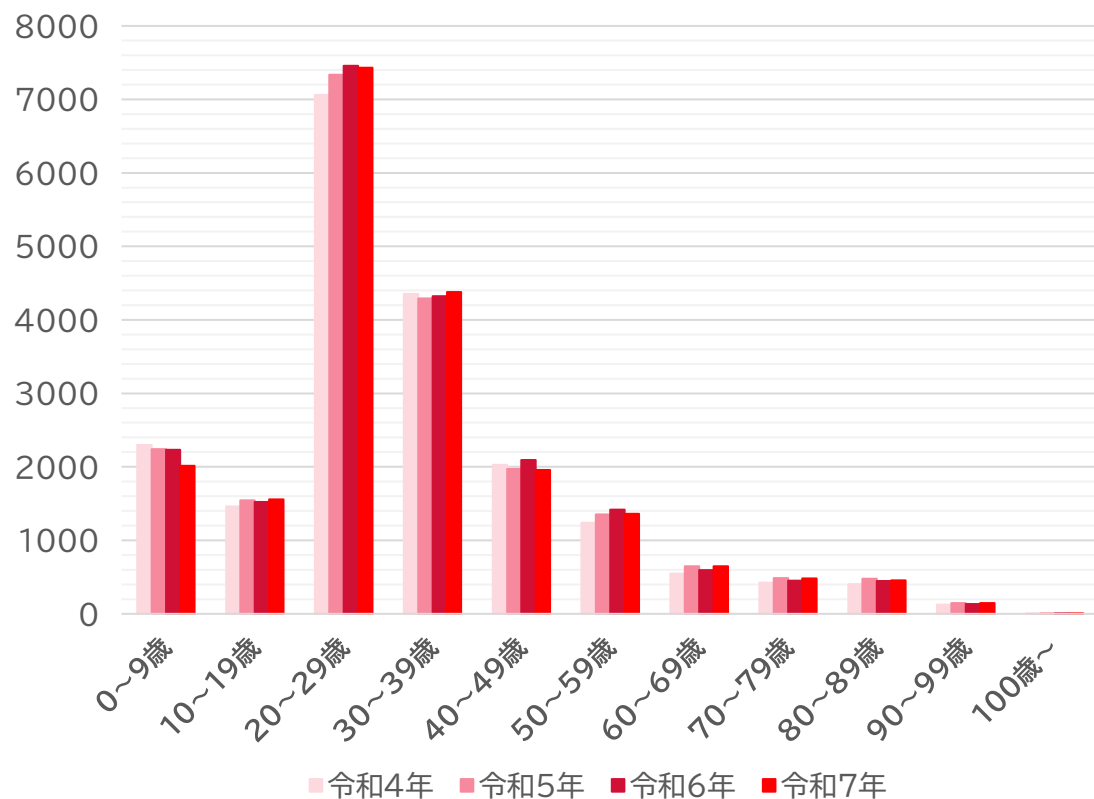


出展: 令和7年(2025年)人口動態統計月報年計(概数)の概況

豊中市の年齢別転入・転出状況

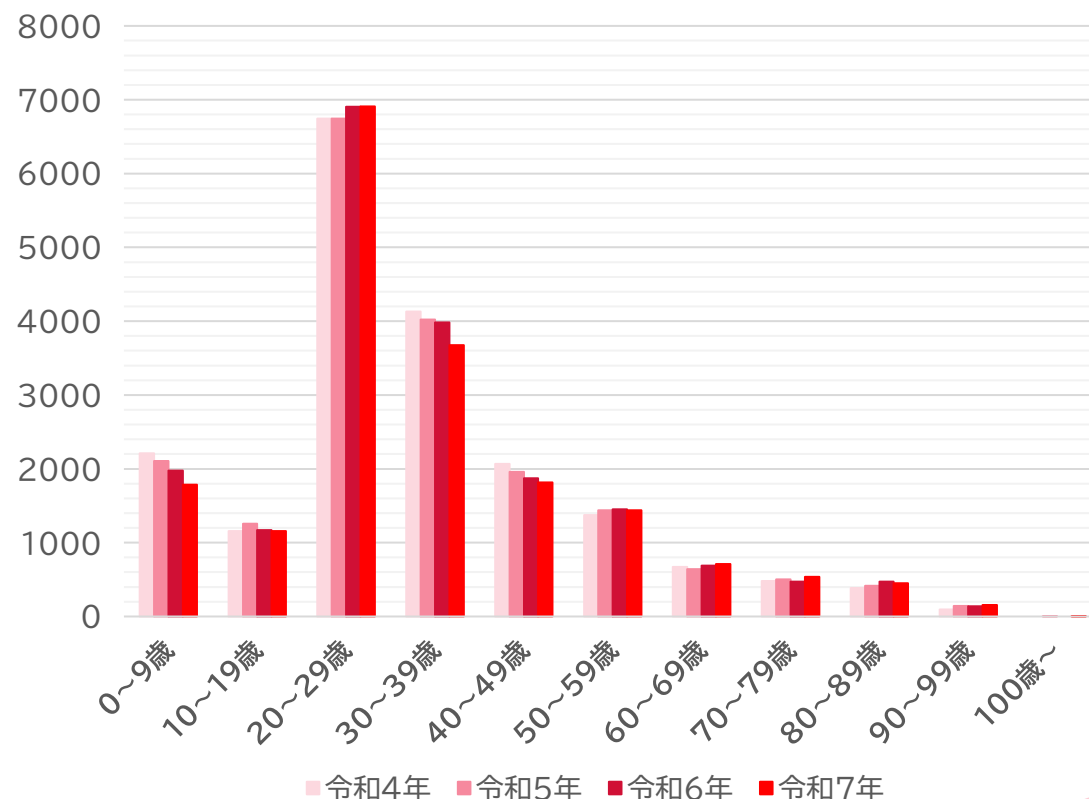
- ・ 転入・転出ともに20、30代及び0～4歳の乳幼児期の移動率が高い
- ・ 子育て世代や若年層の移動が活発
- ・ 20、30代の移動率が高いことから、共働き世帯も多く、保育ニーズも高い

<年齢別 転入数>



出典:住民基本台帳

<年齢別 転出数>



出典:住民基本台帳

若者と子育て世帯の結婚や子育てに対する意識

- 若者の結婚や子育てへの希望は依然として高い
- 経済的な理由で結婚へのハードルがあると同時に、結婚後も理想の子どもの数が持てていない
- 約5割が仕事や子育て環境などの理由で子育てと仕事の両立ができない

① 結婚・子育てへの希望は高い

63.8%

未婚者が「結婚したい」「できるなら含む」と回答
〈こども家庭庁「令和6年度 若者のライフデザインや出会いに関する意識調査」〉

約8割

18～34歳未婚者が「いずれ結婚するつもり」
〈第16回出生動向基本調査(結婚と出産に関する全国調査)〉

② 結婚へのハードル 理想の子どもの数が持てない

56.0%

未婚者が「自分が養えるほどの経済力がない」など経済的な理由で結婚へのハードルとなっていると回答
〈こども家庭庁「令和6年度 若者のライフデザインや出会いに関する意識調査」〉

52.6%

理想の子どもの数を持たない理由
「子育て・教育にお金がかかりすぎる」
〈第16回出生動向基本調査(結婚と出産に関する全国調査)〉

③ 子育てと仕事の両立

45.5%

「自分の仕事に差し支える」など仕事等を理由で理想の子どもの数が持てないと回答
〈第16回出生動向基本調査(結婚と出産に関する全国調査)〉

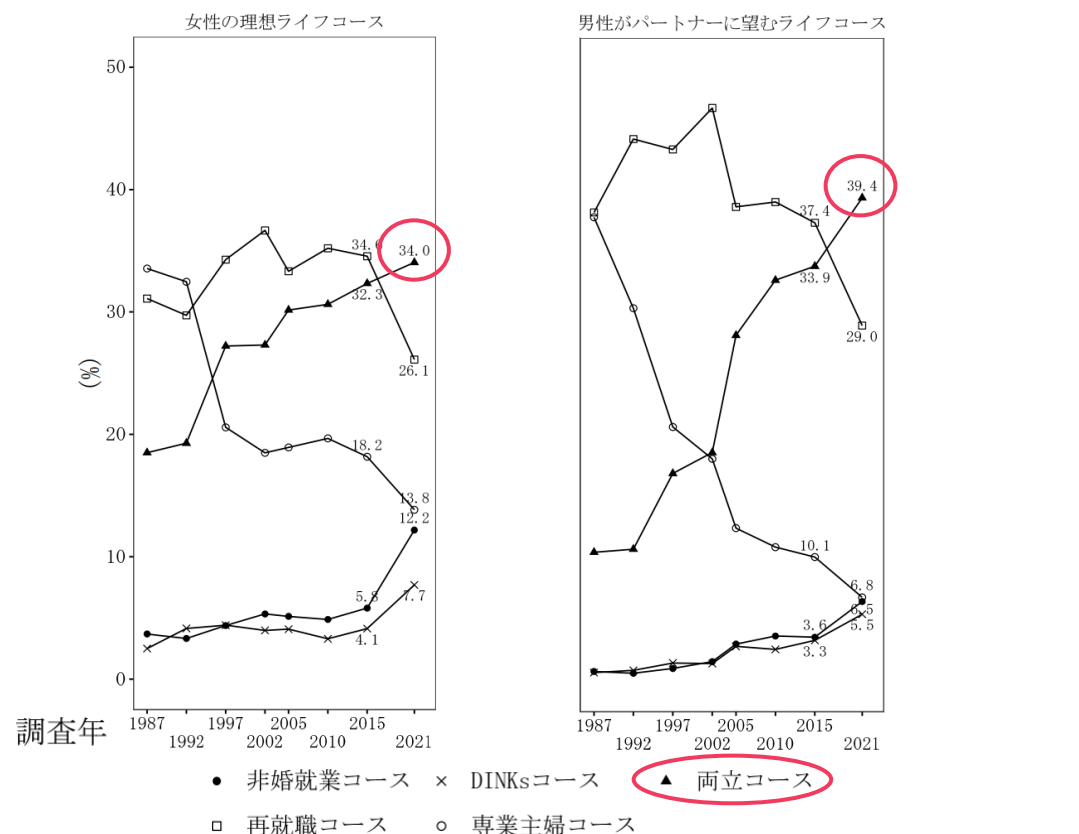
55.3%

理想の子どもの数を持たない理由
「経済面以外の子育て環境に関する理由」
〈第16回出生動向基本調査(結婚と出産に関する全国調査)〉

子育てと働き方の状況

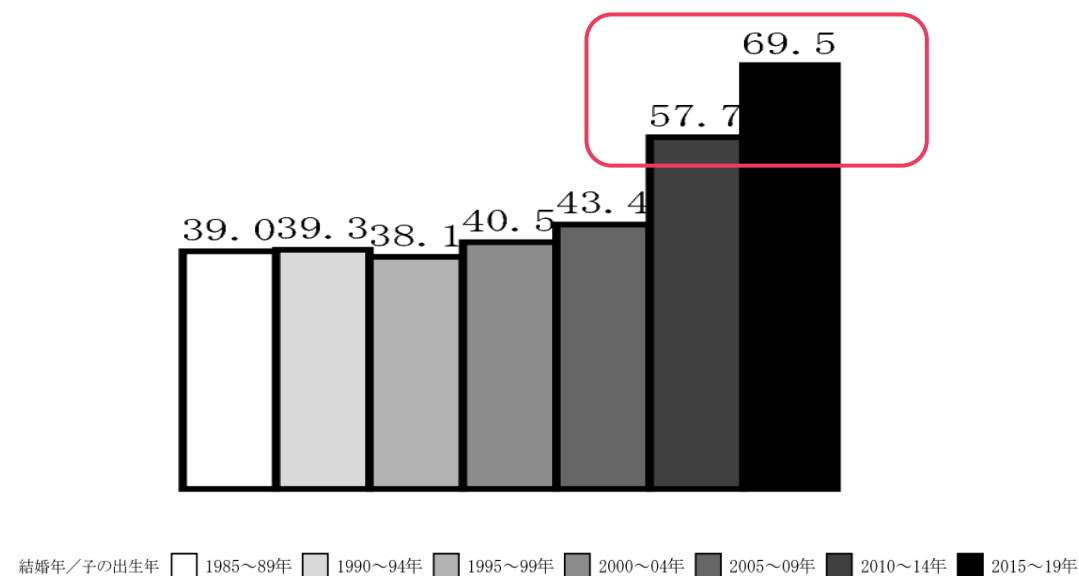
- 結婚、出産、仕事をめぐる女性のライフコースについて、未婚男女ともに「子育てと仕事を両立させる生き方を理想」とする割合が最多
- 第1子出産前後の妻の就業継続率は、平成22年(2010年)以降大幅に上昇

＜女性の理想、男性がパートナーに望むライフコース＞



出展: 2021年社会保障・人口問題基本調査「結婚と出産に関する全国調査」

＜第1子出産前後の就業継続率＞

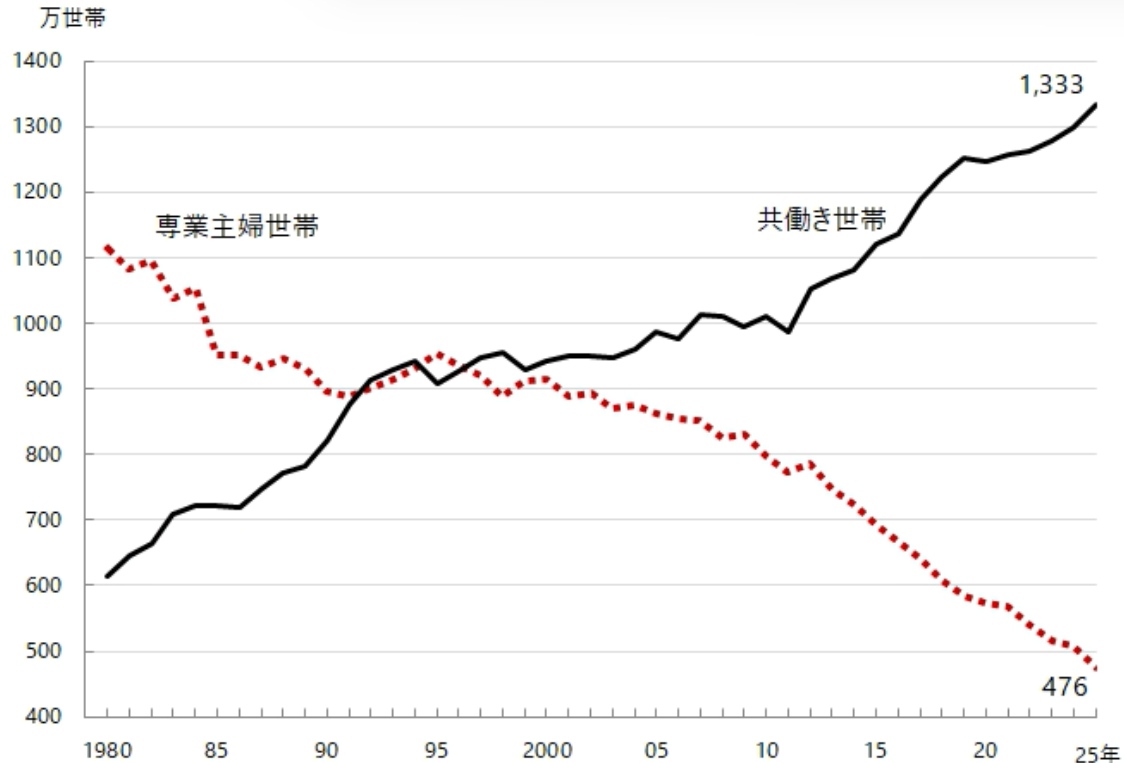


出展: 2021年社会保障・人口問題基本調査「結婚と出産に関する全国調査」

共働き世帯数・子育ての負担感

- 共働き世帯数は年々増加
- 4割以上の子育て世帯が仕事と子育ての両立に余裕がなく、精神的な負担を感じている

＜共働き世帯数の年次推移＞



出典：労働政策研究・研修機構(JILPT)「早わかり グラフでみる長期労働統計
図12 専業主婦世帯と共働き世帯」(総務省統計局「労働力調査(詳細集計)」等に基づく)

子育てに関する精神的・身体的負担について

- ・仕事と子育てを両立させるうえで(体力的・精神的に)自分に余裕がない(就学前)
50.4%
- ・仕事と子育てを両立させるうえで(体力的・精神的に)自分に余裕がない(小学生)
45.2%
- ・子育てに関して不安や精神的な負担を非常に感じる・どちらかといえば感じる(就学前)
49.3%
- ・子育てに関して不安や精神的な負担を非常に感じる・どちらかといえば感じる(小学生)
43.9%

出典：豊中市子育て・子育て支援に関するニーズ等調査